

【プロダクト工学科・工業科目】

学 年 類 型 各教科・科目		標準 単位 数	1 年次 (令和 7 年度入学生)			2 年次 (令和 5 年度入学生)			3 年次 (令和 4 年度入学生)		
			必履修	学校必履修	自由選択	必履修	学校必履修	自由選択	必履修	学校必履修	自由選択
工業	工 業 技 術 基 礎	3～4		4 (16)							
	課 題 研 究	3～4							3 (3)		
	機 械 実 習	6～12				4 (3)				4 (3)	
	機 械 製 図	2～8				3 (2)				2 (2)	
	工 業 情 報 数 理	2～4	3 (10)					1 (1) ①			
	機 械 工 作	4～8				2 (1)			2 (1)		
	機 械 設 計	4～8				2 (1)			2 (1)		
	原 動 機	2～4								2 (1)	
	通 信 技 術	2～6						2 (1) ※○		2 (1)	
	ハ ー ド ウ ェ ア 技 術	2～8						2 (1) ※○		2 (1)	
	デ ザ イ ン 史	2～4								2 〇	
	加 工 技 術 応 用	2						2 (1) ※		2 〇 ※	
	労 働 と 安 全	2						2 (1)			
	プロダクト C A D 演習	2						2 (1)			
	3 D C A D 演習	2								2 〇	
	自動車に関わる法令	2								2 〇	
	基礎自動車工学	2								2 (1)	
	屋内配線施工技術応用	2						2 (1) ※○		2 (2) ※○	
	基本情報処理技術	2						2 (1)		2 (1)	
	電子工作演習	2						2 (1) ※○		2 (2) ※○	
	色 彩 演 習	2						2 (2)		2 (1)	
	デ ッ サ ン	2						2 (1)		2 (1)	
	グラフィックデザイン実習	2						2 (2)			
専門教科・科目単位数計			7			12～18			15～25		
総合的な探究の時間			0			0			0		
自立活動			0～1			0			0		
ホームルーム活動			1			1			1		
生徒一人当たりの履修単位数計			34～40			29～35			24～44		

【工学科・令和7年度入学生の習熟度別授業・少人数指導授業等】

習熟度別授業	(1) 数学Ⅰ(4単位)は1学級2展開 (2) 英語コミュニケーションⅠ(1年次3単位)英語コミュニケーションⅡ(2年次2単位、3年次2単位)は1学級2展開
少人数指導授業	(1) 言語文化(2単位)は1クラス2展開で実施。 (2) 体育(1年次：3単位、2年次：2単位、3年次：2単位)は1クラス2展開 (3) 働くこと生きるとはティームティーチング (4) 多言語と文化は外部講師とのティームティーチング (5) 工業：工業技術基礎(4単位)は5クラス16展開 工業情報数理(3単位)は1クラス2展開 課題研究(3単位)及び実習科目は、1クラス3～5展開 機械製図(2～4単位)、自動車製図(2単位)、電気製図(2単位)、デザイン製図(2単位)
備考	(1) 1単位時間は45分とする。月・火・木・金(7時限)、水(6時限)。 (2) 必履修科目・学校必履修科目・自由選択科目を履修し74単位以上の修得かつ工業に関する科目を25単位以上履修することで卒業認定とする。 (3) 工業に関する科目の10分の5以上になるように実験・実習科目を履修する。(工業の科目名に付してある▲は実験・実習科目である。) (4) 工業に関する科目は、学校必履修科目の他に自由選択科目から7単位以上選択し、履修する必要がある。 (5) ①は電気主任技術者の履修モデルを選択する場合の履修科目。 ②は3級自動車整備士の履修モデルを選択する場合の履修科目。 (6) ◎は音楽Ⅰの美術Ⅰどちらか一つを選択 (7) 「情報Ⅰ」(2単位)は、1年「工業情報数理」(3単位)によって代替履修する。 (8) 「総合的な探究の時間」(3単位)は、3年「課題研究」(3単位)によって代替履修する。 (9) ★は在京外国人等対象生徒教科科目。週時程外の放課後に設置する。 (10) 論理国語と英語コミュニケーションⅡは2年次(2単位)及び3年次(2単位)の4単位の学習をもって、科目の履修となる。 (11) 論理国語は現代の国語及び言語文化を履修した後に履修させる。 (12) 日本史探求及び世界史探求は歴史総合を履修した後に履修させる。 (13) 倫理及び政治経済は公共を履修した後に履修させる。 (14) 数学Ⅱと数学Ⅲを履修する場合は、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲの順に履修させる。 (15) 数学Aを履修する場合は、数学Ⅰと並行してあるいは数学Ⅰを履修した後に履修させる。 (16) 数学Bを履修する場合は、数学Ⅰを履修した後に履修させる。 (17) 物理、化学については、それぞれに対応する基礎を付した科目を履修した後に履修させる。 (18) 芸術科目については、Ⅱを付した科目はそれぞれに対応するⅠを付した科目を履修した後に履修させる。Ⅲを付した科目は、それぞれに対応するⅡを付した科目を履修した後に履修させる。 (19) 外国語の科目において、Ⅱを付した科目はそれぞれに対応するⅠを付した科目の履修後に履修させる。 (20) ☆特別的教育課程(日本語指導)は指導の対象の生徒のみ実施する。 (21) 日本語理解については、1年次の修得者に対して日本語検定3級取得には1単位、2級以上取得には2単位の増加単位修得を卒業時に認める。 (22) 自立活動は、通級による指導の対象生徒のみ実施する。 (23) 東京都立芸高等学校において拠点校実習を実施(ホームページデザイン・インテリア・鋳造について、年間で4時間)。 (24) ○は2・3年次同時履修。 (25) ※は履修機会が1度の科目。 (26) ◇、◆は工業系選択科目でそれぞれから一つ選択する。 (27) 2年次自由選択科目【a, b, c, 工業系(d, e, f, g)】、3年次自由選択科目【A, B, C, D, E, F, 工業系(G, H, I)】は各アルファベットからそれぞれから一つ選択できる。